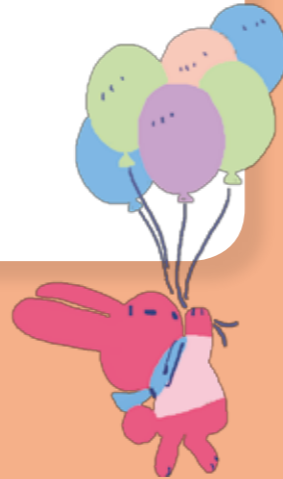


9

特集 フィジカルアセスメントの基本と実践

場面別

# カテーテル検査後の観察とフィジカルアセスメント



佐々木友子 (日本医科大学付属病院 CCU/SCU 主任看護師, 集中ケア認定看護師)

## point

- 患者さんの訴えをよくきき、フィジカルアセスメント能力を活用し注意深く観察する！
- 出血や塞栓症、造影剤アレルギーなど、発見が遅れると生命の危機に直結する合併症がある！
- カテーテル検査の合併症の早期発見と早期対処に努める！

## はじめに

心臓カテーテル検査の合併症は、穿刺部に関するもの、カテーテル操作や手技によるもの、造影剤によるものなどがあります(表1)。見逃すとショックに至る場合もあり、早期発見と早期対処

が重要です。フィジカルアセスメントを活用して患者さんの異常に早期に気づき、かつ、患者さんが安全・安楽に過ごせるようにしましょう。

表1 カテーテル検査の主な合併症

出血・血腫・仮性動脈瘤・動静脈瘻	穿刺部に起こり得る合併症。外科的処置が必要になることもある
血栓塞栓症	カテーテルは動脈内を通過するため、血栓やアテロームが血管内を流れて塞栓を起こす
動脈穿孔	カテーテル操作によって動脈を損傷する
心タンポナーデ	カテーテル操作や冠動脈穿孔により起こる
不整脈	血流遮断・冠動脈攣縮・電解質異常・再灌流により起こる
迷走神経反射	緊張や不安・疼痛によって起こる
神経障害	カテーテル手技による神経損傷、血腫や圧迫止血・安静による神経圧迫で起こる
造影剤アレルギー	造影剤によるアレルギー反応でショックを引き起こす可能性もある
造影剤腎症	造影剤により一時的に尿細管の細胞が傷害されて起こる

## 心臓カテーテル検査とは

### 心臓カテーテル検査の目的

カテーテル検査とは、細いプラスチック製の管でできたカテーテルを動脈や静脈のなかに挿入して行う検査です。心臓カテーテル検査には、冠動脈造影、右心カテーテル、左室造影、電気生理学的検査などがあります。

### 穿刺部位の選択

主に、橈骨動脈、上腕動脈、大腿動脈のいずれかを穿刺してカテーテルを進めていきます。それぞれのメリット、デメリット、患者さんの状態やADL、病態によって安全で安楽に検査できる部位を医師が判断します(表2)。

表2 カテーテル穿刺部位の比較

穿刺部位	シースサイズ	メリット	デメリット
橈骨動脈	6Fr. 以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 止血が容易</li> <li>● 安静時間が短い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 血管径が細い</li> <li>● 穿刺が困難</li> <li>● 動脈攣縮の可能性</li> <li>● 動脈閉塞のリスク</li> <li>● 脳梗塞のリスク</li> </ul>
上腕動脈	7Fr. 以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安静時間が短い</li> <li>● 橈骨動脈より太いシースが使える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 正中神経障害の可能性</li> <li>● 動静脈瘻のリスク</li> <li>● 動脈蛇行により穿刺やカテーテル操作が困難な可能性がある</li> <li>● 出血や血腫の可能性</li> <li>● 脳梗塞のリスク</li> </ul>
大腿動脈	制限なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 穿刺が容易</li> <li>● カテーテル操作がしやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 出血や血腫の可能性</li> <li>● 動静脈瘻形成の可能性(静脈が並走しているため)</li> <li>● 安静が長い</li> </ul>